



緒方 廣人さん

Ogata Hiroto

〔上豊内区〕

おがた・ひろと / 洋画家。第43回日展で、「POST OFFICE - III」を出展し、入選。町生涯学習センターには、寄贈作品「マルサラの家 - II」が展示。

自分で見て感動したテーマを 作品として自ら描く味わい

「絵のモチーフの持つ空間や空気を、色や形を追い掛けていく人間の目の特性を念頭に置いて上手く描けたと思う」と語るのは、洋画家・緒方廣人さん。日本を代表する美術展覧会の一つ、第43回「日展」（日本美

術展覧会）に、イギリスの郵便局の外観を描いた作品「POST OFFICE・III」を出展し、初の入選を果たした。旅行中にモチーフとなった郵便局の前に差し掛かったとき、「夕闇の中に現れた風景が、と

てもきれいだっただ」感動を、絵筆で丹念に描写。人間の目を楽しませる配色を考慮した長方形が並ぶ構図組み立て、シリーズとして何度も練り直して描き、今回の入選作品は完成した。絵画の魅力について、「自分で見て感動したものを、自分で描いて形にすることに喜びと味わいがある」と語る緒方さん。デッサンなども扱う建築を専門として教壇に立っていたこ

とから、胸にくすぐらせていた絵画への思い。10年ほど前に描いた50号の絵が作品展で入選したことをきっかけに、本格的にキャンパスに向き合い始めた。絵画は、「いろんな風景でも人物でも、描くテーマへの思いには感動がある」と考察。心に響いた感動をかたどる過程は、「色をどう使い、線をどう引くのか、ということ一つにしても難しい」と緒方さん。「描いては考えて、しばらく離れて眺めたり、上下を引っ繰り返したり、絵筆を置いて寝かせたり」と、絵画と暮らす日々は試行錯誤の繰り返し。しかし、「構図や配色を綿密に考え抜いて、一つの作品として仕上げていく。じっくりと計算されたものが絵として出来上がり、形になる過程もまた楽しい」とほほえむ。今後の制作活動について、「海外の風景などを多く描いたので、これからは、甲佐や熊本のあるさとの風景を描くことにも挑戦したい」と緒方さん。「そして、人の目を楽しませて感動させることができる作品を描きたい」と、絵筆に感慨を込めてキャンパスに向かう。

広報 こうき

2011年（平成23年）12月号
通巻509号